

(3) 雄勝地区

□ 現況

雄勝地区は、本市の東部に位置し、太平洋に面した雄大なリアス式海岸を有しているほか、西部には北上山系から連なる硯上山がそびえ、国の指定を受けている天然記念物「八景島暖地性植物群落」や市指定天然記念物「雄勝荒魚竜化石群」があるほか、太平洋を一望できる「白銀崎」はみやぎ新観光名所 100 選に選ばれるなど多彩な自然を有する風光明媚な地区です。

本地区は水産業が盛んで、「ホタテ」「うに」「あわび」「かき」「ほや」「ぎんざけ」「わかめ」などの多彩な海産物を有しています。特に「かき」や「ホタテ」の養殖業が盛んであり、山間部と海が近く、豊富な栄養素が山から海へと流れることにより良質なものが育つことで有名です。

600 年以上の伝統を誇る国指定の伝統的工芸品「雄勝硯」の原料である「雄勝石」は、古くから硯の原料のほか屋根材などに使われる「雄勝石スレート」に加工されています。平成 24 年に完成当時の姿に復元された東京駅丸の内駅舎の屋根材にも使われています。

令和 2 年には、雄勝中心部地区拠点エリア「硯上の里おがつ」に、震災により被災した「雄勝硯伝統産業会館」や「雄勝観光物産交流館（おがつ たなこや）」が再建・新設され、地区の観光・商業の振興、地域振興の中核を担う施設として期待されています。

そのほかにも、大須崎灯台は「恋する灯台」として平成 30 年に認定され、新たな観光スポットとして期待されているほか、国の重要無形民俗文化財である「雄勝法印神楽」、宮城県指定無形民俗文化財である名振地区の「おめつき」や「伊達の黒船太鼓」など、伝統文化による観光振興も期待されています。

また、震災により地区内にあった雄勝病院が全壊したことにより、平成 23 年 10 月に開設した仮設診療所が地域医療を担ってきましたが、平成 29 年に雄勝診療所・雄勝歯科診療所が開所し、重要な地域医療の拠点としての機能を果たしています。

□ 主要課題

東日本大震災により、震災前の居住者の多くが地区外や他市町村などへ転居、転出し、令和 2 年 9 月時点で震災前の人口の 4 分の 1 程度である約 1,150 人に減少したほか、全国的に加速する人口減少、少子高齢化の影響もあり、高齢化率の上昇による地域コミュニティの存続そのものが大きな課題になっています。

交通体系は、住民の生活において極めて重要であるほか、交流人口の拡大という観点からも欠かせない要素となっています。

産業については、基幹産業である水産業の担い手不足や、伝統産業である硯工人の後継者不足が深刻化しています。

名振地区の「おめつき」をはじめとする地域の特色ある伝統文化が、人口減少や少子高齢化などによる担い手不足により存続が困難になっています。

将来展望

リアス式海岸特有の自然環境を活用した養殖業を中心とした水産業や雄勝石を活かした地場産業や観光事業による地域振興が行われるとともに、関係人口の増加、移住・定住を促進することにより豊かな生活が営まれています。

施策展開の方向

- リアス式海岸特有の雄大な海岸景観や山間部の豊かな自然環境、豊富な特産品など豊かな地域資源を活かした交流人口の拡大、情報発信や資源の有効活用による移住・定住の促進を図り地域コミュニティの存続に努めます。
- 市内他地区へのアクセスがしやすい、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。
- 住民の生活や交流人口の周遊に関わる道路網の整備促進を関係機関に働きかけ、住民の利便性向上や地域の活性化を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 地域の医療ニーズに対し柔軟に対応できる仕組の構築や共に支え合う仕組づくりを推進します。
- 豊かな森と海の恵みに育まれたホタテ、岩ガキなど新鮮な地場産品の地域ブランドの確立や高付加価値化を図り、地域基幹産業である水産業の振興や水産業の担い手確保に努めます。
- 持続的に自然資源を活用できるよう、有害鳥獣対策や自然環境の保全活動などを推進します。
- 古くからの伝統を誇る「雄勝石」などを地域資源として連携しながら活用し、地域観光の活性化を図るとともに、長い歴史を持つ「雄勝硯」や天然スレートなどの雄勝石産業を支える担い手の育成・保護育成し、貴重な地域資源として活用を図ります。
- 「雄勝法印神楽」や名振の「おめつき」「伊達の黒船太鼓」などの伝統芸能を継承するための活動を支援するとともに、地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。